中国四国農政局
ディスカバー
農山漁村の宝
選定地区

ディスカバー農山漁村の宝

【お問い合わせ先】

中国四国農政局島根県拠点地方参事官室
〒690-0001　島根県松江市東朝日町192
☎0852-24-7311

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532　岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号
☎086-224-4511

ディスカバー農山漁村（むら）の宝
（第９回応募団体）

取組事例集

これからは、農山漁村（むら）の時代だ。

令和５年３月
中国四国農政局

目　　次

○ 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について ・・・・・・・・ 1

○ 応募地区（者）一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

○ 応募地区（者）位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

○ 応募地区（者）の取組事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

１．「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）では、令和４年６月 16 日から８月 26 日までに、農山漁村活性化の取組として全国から 616 件（管内からは 177 件）の応募があり、令和４年 11 月７日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第９回選定）有識者懇談会において、団体部門（ビジネス・イノベーション部門及びコミュニティ・地産地消部門）で 33 地区と個人部門で４名が「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として選定されました。

中国四国農政局管内からは９地区と１名が選定され、その中から優秀賞のビジネス・イノベーション部門に高知県四万十町の「株式会社四万十ドラマ」、優秀賞のコミュニティ・地産地消部門に岡山県岡山市の「瀬戸内かきがらアグリ推進協議会」、優秀賞の個人部門に島根県奥出雲町の「大石亘太」、特別賞に鳥取県鳥取市の「NPO 法人 bankup」、徳島県海陽町の「株式会社リブル」、高知県高知市「高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部」が選定されました。

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

２．中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった177件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信するため、令和４年10月20日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、９地区を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として28地区と２名を選定しました。

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
オリジナルロゴマーク

３．管内選定地区（者）の概要

（１） 全国版選定（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第９回選定））

NPO 法人 bankup（鳥取県鳥取市）　特別賞

●大学生ボランティアの農村への派遣を 20 年以上継続して実施。
●交流企画や地域産品の加工販売を行う「農村 16 きっぷ」や米の生産から販売まで行う「田舎応援戦隊三徳レンジャー」等、地域活動のプロジェクトをおもしろいネーミングで運営。

学生ボランティアの様子

大石 亘太（島根県奥出雲町）　優秀賞

●牛の放牧が創り出す風景に憧れて牧場として省力的に山を管理し、多目的に利用できるフィールドとして整備するとともに、小頭数飼育により適正量の堆肥を土地に還元。
●バター作り体験などの観光メニューを提供するとともに、地域の保育園、幼稚園及び小学校の校外学習や遠足を受け入れ、「牛のいる風景」を解放。

来場者に牛の説明をする大石氏

瀬戸内かきがらアグリ推進協議会（岡山県岡山市）　優秀賞

●漁業関係者のみならず地域としての処理課題であった瀬戸内海で水揚げされた牡蠣の殻を加工粉砕して、農畜産物の生産・飼育に活用した農業を実施。
●牡蠣殻を農業者の手によって資源循環させた農畜産物を生産し、「里海米」など生産物に「里海」を冠してブランディング。

全国で排出される年間の
牡蠣殻は約 16 万トン

上籾みろく農場協議会（岡山県久米南町）

●耕作放棄地が目立っていた上籾地区中央の棚田を企業と共同で復元。継続して棚田の管理と農作業を実施。
●復元した棚田を見渡せる古民家カフェを運営。地元の農産物を使ったメニューを開発・提供するとともに、手作りの特産品や棚田米、オリジナル商品を販売。

棚田が見渡せる古民家カフェ
（棚田テラス「籾庵」）

川西自治連合会（広島県三次市）

●人口減少・高齢化とともに地域内産業が衰退。住民出資の地域運営株式会社と、地区全体で構成する自治連合会の２層構造により、農地・農業を守り、雇用を創出し、地域内経済循環を形成。
●少量多品目の農産物でも収益があげられるように、農村型コンビニを中心に、産直市、農産加工品販売、軽食堂部門を併設した、地域生活交流拠点「川西郷の駅」を運営。

地域と共に開催した
郷の駅感謝祭

かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

●過疎高齢化のため、単一地区での棚田保全・活性化活動の推進は困難なため、４地区で連携して活動。コロナ禍で、オンラインでの交流を行う「棚田ウェブ談議所」を開催し、町内外の人材と関係を構築。
●オンラインとリアル交流による「全国キッズ交流」、「オンライン産直市交流」と、これらの活動の発展系として「美しい村24時間オンラインライブ」を開催。

棚田ウェブ談義所

株式会社リブル（徳島県海陽町）　特別賞

●牡蠣の養殖で、データやアプリを活用して養殖技術の見える化を図り、養殖技術支援と強い種苗の生産の新規産業を創出。
●IT 技術を駆使した新たな水産業への理解醸成に向けて、小学校などの教育現場への出前授業や漁場案内等を実施。

地元の学生の漁場見学を毎年受入

株式会社山南営農組合（香川県三木町）

●効率的な農業の推進や地域の魅力を県内外に伝えることを目的に設立。地域のブランド米「小簑（こみの）米」の生産・販売等を実施。
●産直、レストランのほか、昔ながらの田舎暮らしが体験できる農家民宿を開業。学生や地域おこし協力隊とも連携した取組を展開。

地元農産物を提供する
農村レストラン

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部（高知県高知市）　特別賞

●地域課題である鳥獣被害の解決に向け、高校生が地元のシカやイノシシ肉を原料として商品開発を行い、販売。
●クラウドファンディングによって森林保護活動の資金を調達し、返礼品としてジビエ商品を活用。

高校生ジビエ・レストラン

株式会社四万十ドラマ（高知県四万十町）　優秀賞

●「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに地域の６次産業化に取り組む「地域商社」を実現。
●「しまんと地栗工場」の建設により以前の約５倍の製造体制が整い、地域の雇用の場となっている。栗の新植、芋の作付面積を拡大する取組等を開始。

高知県版 HACCAP を取得した工場

（２）地方版選定（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

株式会社　ｐｃｂ（鳥取県南部町）

●「ジェラートで地域おこし」を目標に、地域の小規模農家からその日に販売する分だけの農産物を買い取り、ジェラートに加工して販売。
●コロナ禍で来店が難しいという声があり、移動販売車を導入。
●週に１回、地元ラジオ局の「ジェラテリアお千代さん」というコーナーで、旬の農作物の話題、地域の話題などを発信。

地元の旬な農作物が新鮮なジェラートへ

社会医療法人正光会 さんさん牧場（島根県益田市）

●引退後の競走馬の貴重な受け皿となり、乗馬やセラピー、馬事文化の継承として流鏑馬神事に参加するなど様々な活動を行う。
●農福連携として、同法人Ｂ型事業所と市内の卸売業者と連携した「農・商・福連携事業」を実施。障害者の社会参加や地産地消の推進に貢献。
●有機質が多い馬糞を活用した循環型農業を実施。

観光牧場として、休日は親子連れで賑わう

おかき戦隊瀬戸南じゃ～（岡山県岡山市）

●学生が有機農法で育てたもち米と地域の特産品を使い新商品「瀬戸南おかき」を開発。
●カラフルなつなぎで地域イベントに参加し、販売活動を行うとともに、地域特産品の宣伝にも取り組む。

地域の販売会で歌を披露

広島みはらプリンプロジェクト実行委員会（広島県三原市）

●広島みはらプリンで三原のまちと食材の付加価値向上や地域経済循環を図り、全国へ発信。「三原の食材を一つ以上使用」「三原を応援する人（店）」が作ったプリンであれば、随時認定。
●イベントにも積極的に参加し、他地域での催事に出店し、プロモーションを実施。公式の HP や Instagram も開設し、認定されたプリンの紹介やイベント出店情報などを発信。

各店のこだわりが詰まった認定プリン

エシカルバンブー株式会社（山口県防府市）

●「竹害」を「竹財」に変える。環境保全・再生のために伐採した不要な竹に付加価値を付け、未来に有益な竹産業を残す。
●竹の研究者や竹炭職人と連携して商品開発。地域企業とのコラボ商品開発等で、竹の全部位を活かすエシカルなものづくりを追及。
●竹関連事業者の支援及び次世代に繋ぐ竹育や情報発信を行う「竹 LABO」の総合監修・運営。

放置竹林の伐採の様子

合同会社みつぐるま（徳島県海陽町）

●轟神社及び海部川流域における１次産業振興支援。海部川流域での酒米作りから酒蔵との連携、細部にまでこだわり抜いたオリジナル御神酒作りに取り組む。
●文化庁事業を活用し、地域の魅力を体感するツアーを企画・造成。
●轟神社公式 HP 製作運営し、海部川流域の自然環境や文化を発信。

轟神社秋例大祭

アスパラ大騒ぎ実行委員会（香川県高松市）

●地元企業の協力を得て、廃棄対象となるアスパラの軸下部分をパウダーに加工して料理に使用。アスパラ素麺を企画開発。
●アスパラをモチーフとした帽子、アクセサリー、皿等を企画販売の他、アスパラ人形作り、顔抜きパネルの制作、アスパラ×和菓子のワークショップやトークショーを実施。
●県内の飲食店が個性あふれるアスパラ料理を展開。

高校デザイン科制作オブジェ
顔抜きパネル

愛媛県立南宇和高等学校農業クラブ（愛媛県愛南町）

●柑橘類において教育機関として初めて河内晩柑・甘夏で GGAP 認証を取得し、東京オリンピック選手村に提供して愛南ゴールド(河内晩柑)を PR。
●地元水産加工会社により、GGAP 認証の愛南ゴールドと MEL 認証の養殖真鯛のコラボで「愛南ゴールド真鯛」を開発。

柑橘類で教育機関初の
GGAP 認証取得

特定非営利活動法人日高わのわ会（高知県日高村）

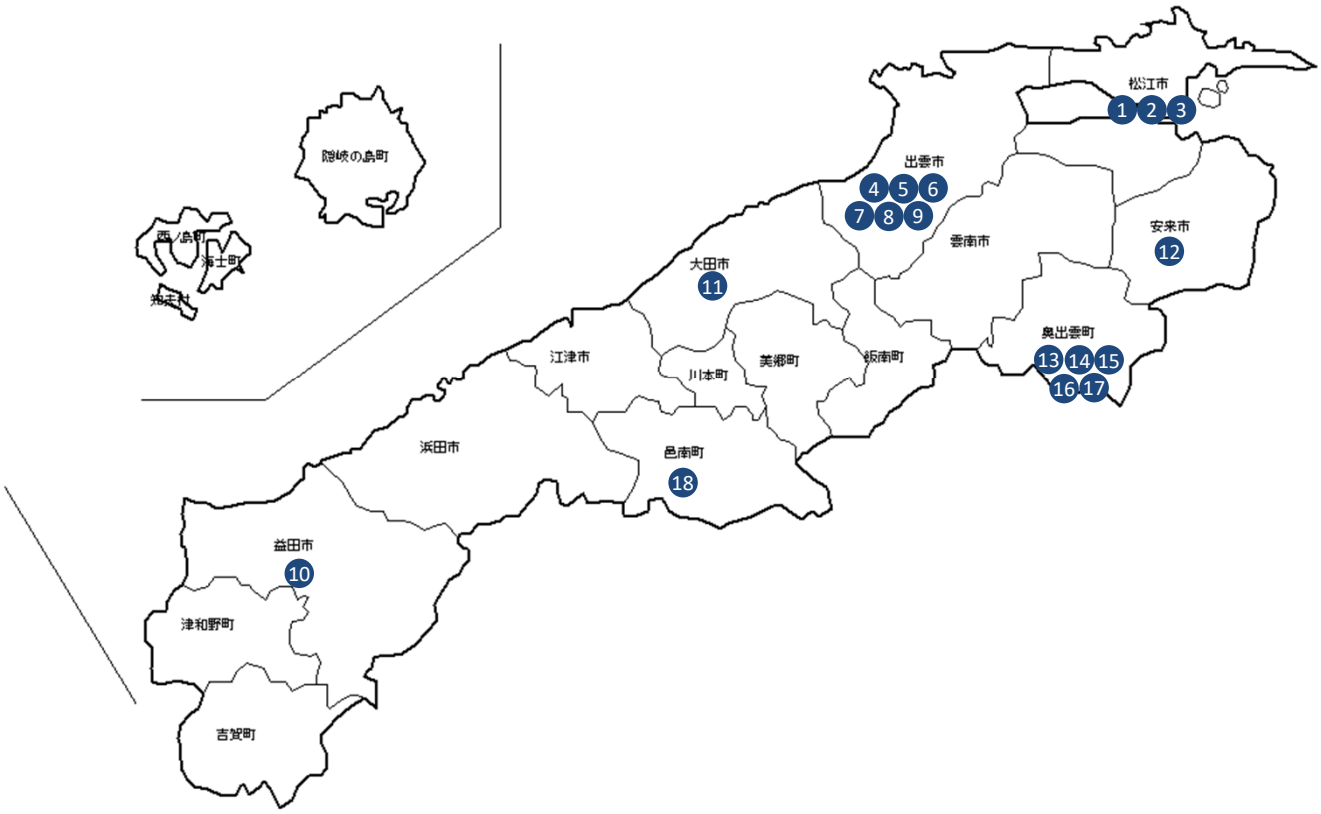
●「できる人が　出来ることを　出来る時間に」を合言葉に社会的弱者が地域を支える仕組みを構築。地域の困りごとを解決するコミュニティ産業の開発と展開。障がい者支援など大小合わせて約 30 事業を展開。
●小規模多機能型の事業を展開することで、行政サービスでは届ききらないニッチな住民ニーズに対応。

とまととでの記念撮影

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第9回選定） 応募地区（者） 一覧 （島根県）

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①	奨励賞	団体	松江市	合同会社大根島研究所	6次産業化	企業との連携	雇用
②		団体	松江市	道の駅本庄企業組合	6次産業化	雇用	高齢者の活躍
③		団体	松江市	認定NPO法人　自然再生センター	環境保全	教育機関との連携	食育・教育
④		団体	出雲市	矢尾環境保全組合	環境保全・景観保全	荒廃農地対策	動物愛護
⑤		団体	出雲市	鳶巣環境保全協議会	環境保全・景観保全	教育機関との連携	―
⑥		団体	出雲市	久多美ふれあい実習園運営委員会	農業	教育機関との連携	学生・若者の活躍
⑦		団体	出雲市	伊野やって未来こい！ネット	農業	食育・教育	関係人口の創出
⑧		団体	出雲市	たきっこ☆キラリ	農村文化体験	食育・教育	女性の活躍
⑨		団体	出雲市	イズモ・アグロブラジル	荒廃農地対策	移住・定住	スポーツとの連携
⑩		団体	益田市	社会医療法人　正光会　さんさん牧場	農福連携	農業	伝統の継承
⑪	奨励賞	団体	大田市	大田商工会議所	水産業	教育機関との連携	関係人口の創出
⑫		団体	安来市	永田集落農地・水保全管理活動組織	環境保全・景観保全	教育機関との連携	女性の活躍
⑬		個人	奥出雲町	大石　亘太	農村文化体験	グリーン化	食育・教育
⑭		団体	奥出雲町	竹崎本郷集落協定	自然・景観	地域活性化	農業体験
⑮		団体	奥出雲町	梅木原集落営農組合	農業	環境保全・景観保全	―
⑯		個人	奥出雲町	村上　明雄	農業	後継者育成	―
⑰		団体	奥出雲町	株式会社サンエイト 社会福祉法人奥出雲町社会福祉協議会	農福連携	引きこもり支援	―
⑱		団体	邑南町	邑南そば街道推進協議会	農業	地産地消	―

応募地区（者）位置図（島根県）



1 島根県松江市（まつえ）

6次産業化　企業との連携　雇用

奨励賞

合同会社大根島研究所（ごうどうがいしゃ　だいこんじまけんきゅうしょ）

～捨てていたのなら買います！～

いちじく・みかん・安納芋の特産品ビール

どじょう掬いまんじゅうを再活用したビールと八束町アイス3兄弟

経　緯

○事業を行っている八束町では、良い農産物や魚介類があるものの、販売する場所が少なく廃棄してしまうものを見て、何とかしたいとの思いから、販売方法を検討した結果、アイスと酒類の開発に至った。
○八束町が構造改革特区に認定されたことを機に、クラフトビール、リキュール、どぶろくの製造を行う総合酒類製造場として活動。

取組内容

○地元の米や安納芋を原料とした日本酒や焼酎を製造委託で販売するほか、清酒製造の工程で出される酒粕を活用した「酒粕アイス」や「安納芋アイス」、「ブルーベリーアイス」を販売。
○規格外で廃棄してしまう山陰銘菓「どじょう掬いまんじゅう」を使用したクラフトビールを製造販売。小麦粉の生地と、中の餡が発酵促進するので現在、小麦が高騰する中、原料の代用品になっている。
○島根県内の企業8社とのコラボ商品を販売。

活動の効果

○製造したどぶろくは「第15回どぶろく研究会」で優秀賞、クラフトビールでは「ジャパングレートビアアワーズ2021」の銅賞を始め、合計で6個の賞を受賞。
○地元の特産品を活用する、廃棄予定の商品を活用するといったSDGs、サスティナブルに沿った商品作りの結果、大手飲料会社の一部門から声がかかり共創していくこととなった。

応募団体からのアピール・メッセージ

弊社は企業理念の一つに「農家の所得向上の為に」を掲げており、事業をしている場所の周辺の良いもの・良い場所を活用した商品の開発販売と同時に知ってもらい、来てもらい、観光に結びついた活動をしたいと思っています。

松江市八束町　Tel：050-5217-5505

2 島根県松江市（まつえ）

6次産業化　雇用　高齢者の活躍

道の駅本庄企業組合（みちのえきほんじょうきぎょうくみあい）

～小さな拠点づくり（移動販売・農産物集荷事業）～

移動販売車　走る道の駅「ほんじょう一号」

待ちわびたお客さまで賑わう移動販売

経　緯

本庄地区は高齢化が進み、
○お互いに顔を合わせ会話をする機会も減ってきた。
○日常に買い物に自分の足で出かけることができず買い物の楽しみも無くなりつつあった。
○道の駅本庄「産直市」の生産者が収穫した農産物の出荷が困難になってきた方が増えてきた。

取組内容

○移動販売車の運行により、高齢者の買い物や子どもから老人まで幅広い年代層と接する機会を作っている。
○産直市の課題である集荷も移動販売に合わせて行い、生産者の出荷意欲の持続を支援している。
○移動販売車で現在週2回本庄地区内で展開中。併せて販売エリアを近隣地区へ拡大し雇用の創出に繋げ、産業振興の一助としている。

活動の効果

○地域の人から移動販売車が来ることを楽しみにしていただいており、購入品目の要望も聞きながらコミュニケーションが図られるようになった。
○移動販売車の運行を始め、買い物の楽しさや子どもから老人まで幅広い年代層と接する機会が増え、地域の人のコミュニケーションの場にもなっている。
○売上がなかなか上がらない状況の中、新規事業の取組により、売上高が増加している。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の拠点となるよう「道の駅本庄」では、地域の課題である高齢者の買い物支援や生産者の出荷支援に取り組んでいます。

道の駅本庄企業組合　Tel：0852-34-1528

3 島根県松江市（まつえ）

環境保全　教育機関との連携　食育・教育

認定NPO法人（にんていえぬぴーおー ほうじん）　自然再生センター（しぜんさいせい）

オゴノリング大作戦　～藻の利活用の環～

オゴノリ刈りをする松江商業高校生

オゴノリング畑での収穫祭
様々な年代がともに汗を流す

経　緯

○中海・宍道湖淡水化事業中止後、自然再生を目指して活動してきた結果、水質の透明度が上がりオゴノリが生息し始めたが、オゴノリが増えすぎて悪臭やアサリの窒息死の原因となった。
○この課題解決のため、オゴノリを土壌改善に活用し、循環型の社会の再構築を図ろうと考えた。

取組内容

○湖底や畑を研究し、学生や市民が参加して刈り取ったオゴノリを土壌改善のため、耕作放棄地を整備した畑に投入。その畑で、農作物を栽培、収穫するというイベントを実施している。
○栽培した農作物を販売し、購入していただくことで、活動について周知や参画を図っている。

活動の効果

○定期的に刈り取られることで、中海の水質も維持され、肥料として活用することで栄養価の高い作物が収穫できる循環型農業を実現している。
○中海の環境に配慮した伝統的手法で循環させることで貨幣中心の生産性だけに価値を置くものとは異なる、地方での目に見えない価値を可視化できる。

応募団体からのアピール・メッセージ

オゴノリを使って環境を循環させるというSDGsに基づいた活動を展開している。市民が水辺に親しみ参加しやすいフィールドがあり、どこからでも参加できる事業であるため、広く市民を巻き込んでいきたい。

認定NPO法人　自然再生センター　Tel: 0852-21-4882

4 島根県出雲市（いずも）

環境保全・景観保全　荒廃農地対策　動物愛護

矢尾環境保全組合（やび かんきょうほぜんくみあい）

～矢尾の未来に向けた地域づくり～

ヤギ放牧場の整備

千年ハスを植えた池

経　緯

○平成19年度に「農地・水保全管理支払交付金」の導入を契機に組合を組織。交付金を活用した水路及び農道の補修を計画的に実施。

○農地環境の保全に加え、組合の新たな発展方向として、遊休地を活用したビオトープやヤギの放牧場を整備し癒し空間を設置。

取組内容

○約60年前に土地改良事業で整備された用水路を補修計画に基づいて補修を実施。

○未舗装の農道に生じる「わだち」の補修作業を実施。

○川の法面の草刈りを6月と7月に実施。

○国道沿いの休耕田に癒し空間としてビオトープを設置、池を2つ設け「千年ハス」を植栽、池の周囲に芝生、国道沿いにコスモスを植栽し管理している。

○ヤギ放牧場を整備し動物愛護の意識啓発。

活動の効果

○用水路の補修は累計約800m以上となり、水稲の生育管理が改善。

○導入した一頭の山羊の放牧地を整備し、除草に一役担っているとともに、地域の子供たちが山羊にふれあうことにより、「癒し」効果を発揮。

○ビオトープやコスモス植栽は、大学駅伝コース沿線の環境改善に効果を上げている。

応募団体（者）からのアピール・メッセージ

公園は隣接休耕田を活用して花の植栽や花壇ボックスを設置していき、山羊も増やしていきたい。組合員の高齢化が進むため、互助組織として休耕田の管理を受託するシステムを構築していく。

出雲市矢尾町576　Tel：0853-23-4754

5 島根県出雲市（いずも）

環境保全・景観保全

教育機関との連携

鳶巣環境保全協議会（とびすかんきょうほぜんきょうぎかい）

未来へつなぐ　～元気！やさしさ！しあわせあふれるまち鳶巣～

島根県立大学の学生とブルーベリー収穫体験

障がいのある子供たちと収穫

経　緯

○本地域も、過疎化、高齢化等により農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理が困難になってきた。
○このため、多面的機能支払交付金を活用し、地域資源の保全管理を図るため平成19年度に鳶巣環境保全協議会を設立。

取組内容

○鳶巣地域の農地・農業用水施設の老朽化対策。
○周辺の美化活動、桜並木の景観活動（桜まつり）、ホタルが舞い飛ぶ環境整備。ホタル活動には毎年200人以上の小学生が参加。
○遊休農地を活用したブルーベリー栽培、収穫、ジャムに加工など、近隣の小学校や島根県立大生等と連携した幅広い農業体験を提供している。
○イノシシや鹿などの鳥獣害対策。

活動の効果

○鳶巣地域すべての川にホタルが増えることを願い、ホタルを守るために河川の掃除や、子ども達とホタルの幼虫の餌になるカワニナを採取・放流するなど、ホタルの生息環境の保護に努め、その結果、毎年たくさんのホタルが飛び交うようになり、地区内外の人々を楽しませ笑顔にしている。
○地域の幅広い世代の方に活動に参加してもらい、地域資源の保全管理に留まらず、地域への愛情を育める一体型の協議会を目指して日々奮闘している。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後もより多くの子ども達や親世代に本協議会の活動に参加してもらい、地域活動を通して次世代の若者たちが農業への理解を深め、地域資源を維持管理していくことの大切さを伝えていきたい。

出雲市東林木町890-4　Tel：0853-21-0174

6 島根県出雲市（いずも）

農業 | 教育機関との連携 | 学生・若者の活躍

久多美（くたみ）ふれあい実習園運営委員会（じっしゅうえんうんえいいいんかい）

りんごが繋ぐ～物を作る・土に親しむ喜び～

りんごの収穫作業の様子

収穫したりんごの選別

経　緯

○統合前の久多美小学校の管理に困っていた千㎡以上の土地の活用を保護者・地域の代表者と協議。
○久多美地区は、昔から農業が盛んだったが、全国的に評価を得ている柿以外の特産がないことや担い手の高齢化等の課題が顕在化。
○このため、その土地でりんごを栽培し、子供達に物を作る喜びや土に触れあう機会を与え、将来の久多美の農業の担い手に育って欲しいとの思いで設立し活動。

取組内容

○ふれあい実習園りんごの木120本植樹、りんご収穫
○りんごの収穫祭開催、りんご音頭を披露
《1年間の主な作業等の流れ》
4月 りんごの名札づくり
5月下旬 摘果作業（3年生以上で実施）
6月下旬 袋がけ作業
8月下旬 りんご「つがる」の収穫
10月～　りんご「ジョナゴールド」などの収穫
1月中旬～2月下旬　枝の剪定
3月 枝拾い・追肥作業

活動の効果

○りんごを収穫するまでの一連の活動を通して、収穫の喜びを味わうとともに、ふるさとのよさを体感している。
○様々な作業体験を通して、農業生産の喜びや苦労を味わい、食料生産に対する意識を高めている。
○様々な活動を保護者や地域の人々といっしょに行い、ふれあいを深めることによって、「ひと・もの」への感謝の気持ちを持つようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業の盛んな土地に暮らす子供達が、今後もりんご栽培の様々な活動を保護者や地域の人々と一緒に行い、ふれあいを深め「ひと・もの」への感謝の気持ちを持ち続けられるように育てていきたい。

出雲市東福町453　Tel：0853-63-2614

7 島根県出雲市（いずも）

農業　食育・教育　関係人口の創出

伊野（いの）やって未来（みら）こい！ネット

～関係人口とともに新しいコミュニティーの創造～

手作りの「よっ得！？伊野いち」オープン

耕作放棄地復活プロジェクト　ソバの収穫

経　緯

○2012年、出雲市が提案した伊野小学校の統合案をめぐる議論から当地区のまちづくりが本格スタートした。
○2019年、「伊野の未来を創る戦略会議」を立ち上げて10年後の将来ビジョンを作成し具現化に取り組む実行部隊として「未来こい！ネット」が立ち上がった。

取組内容

○関係人口との協働により新しいコミュニティーをめざす挑戦を始め海山湖を基盤に、楽しい暮らし、人が育つコミュニティーをめざす。
①見たことがない産直市！
－ 小学生が働いている！意外な品ぞろえ！お客さまとの交流 －
②子育てするなら伊野で
－ 海・湖・里山を舞台に人生を遊ぼう！ －
③空き家はミラクルが起きるパワースポット
－ 関係人口をつくる －

活動の効果

○農業者の生産意欲を高めるために、農産物販売の機会を増やし毎週金土開催の「よっ得！？伊野いち」をオープンした(2020年)。さらに、昨年から耕作放棄地を蕎麦畑に甦らせる取組が始まり、県外・地区外から約20名の参加。
○関係人口との協働により私たちの取組がSNS等で拡散し、移住希望者が現れるようになった。空き家活用をIUターン拡大へとつなげていきたい。

応募団体からのアピール・メッセージ

定住人口が減るのは避けがたいが、関係人口を含めたコミュニティーの規模を広げ、世界とつながり、人と文化が行き交うコミュニティーをつくっていきたい。

出雲市野郷町459-2　Tel：0853-69-1526

8 島根県出雲市（いずも）

農村文化体験　食育・教育　女性の活躍

たきっこ☆キラリ

～次世代の子達へ、今、私達が出来ることを！～

豊かな自然を活用した「キラリの森」

子ども達と修繕した釜戸で火おこしや調理

経　緯

○子どもたちの取り巻く環境は安全面が重視され、自由に遊べる場が激減
○町にある山・川・海などの豊かな自然で実体験を通して自尊感情や豊かな心・郷土愛を育み、直接的な関わりを通して味方になってくれる大人が身近にいることを実感してほしいと活動を始める。

取組内容

○自然体験活動『キラリの森で遊ぼう』
整備した山林（キラリの森）で森・川遊び、火を起こしてご飯や味噌汁作りをする。月1回程度（冬季除く）開催。
○関わり遊び『忍者、多伎のまちを走る！』
講師を招いて1回、自主開催1回の年2回開催。初対面の大人と子どもが図書館、閉校後の校舎、神社等の町内施設で（施設利用は自治協会の協力による）修行遊びを楽しむ。

活動の効果

○生活体験や思い通りにならない自然環境を通して子どもは五感を使い、考える力を育む。文化や生活の知恵の継承が自然な形で生まれている。行政や地域の協力により、山林や備品の維持・活用ができている。
○町内の施設が身近に感じられ、居場所作りのきっかけを担う他、共感を持って関わることで自尊感情を育む。また、見知らぬ人が知っている人に変わることで地域に安心感が生まれる。

応募団体からのアピール・メッセージ

生活の知恵や伝統の継承により地域との繋がりを深め、自然との共存意識、郷土愛を育みながら、誰もが楽しく集える場を定着させて地域活性に繋げたい。

出雲市多伎町久村777-1　Tel：090-3178-8382

9 島根県出雲市（いずも）

荒廃農地対策　移住・定住　スポーツとの連携

イズモ・アグロブラジル

～農と食で国際交流。出雲を支えるブラジル人～

キャッサバ芋、ケール、ビーツの料理教室

キャッサバ芋苗植え交流会

経　緯

○出雲市在住ブラジル人の内1/3は出雲市に永住を希望しているが、不安定な雇用の為、突然自国に帰らざるを得ない状況になるブラジル人も多くいる。

○一方で出雲市には高齢化により耕作放棄地が多くある。ここをブラジル人が開拓して職場を作っていけば住み続けることができるのではないかと取組が始まった。

取組内容

○ブラジルでよく食べられている食材（キャッサバ芋、ケール、ビーツ、カリオカ豆）を育てている。これらの食材を使った商品開発、食品ロス対策、加工機器の開発を行い、工場整備や就労訓練も予定している。

○国際理解と食育として出雲市内の学校給食にもキャッサバ芋を取り入れてもらった。

○「キャッサバ芋フェスティバル」を開催し、代表の講演や野菜の食べ方を紹介した。

活動の効果

○当初はブラジル人に畑を貸してくれる人はいなかったが、令和4年度には耕作面積6haになり、キャッサバ芋が12トン収穫できる見込み。

○「キャッサバ芋フェスティバル」では参加者は100名を超え、キャッサバ芋を国籍問わず一緒に育てていこうと話をした。その後、畑の見学者が累計300名以上になった。

○ブラジル人選手のいる地元の女子サッカーチームではキャッサバ芋収穫体験にも積極的に関わっていきたいと意向を示している。

応募団体からのアピール・メッセージ

耕作放棄地を利用して地域おこし。新たな外国人雇用を生み出し、農と食で国際交流を図っていく。

出雲市渡橋町203-5　Tel：0853-25-7345

10 島根県益田市（ますだ）

農福連携　農業　伝統の継承

社会医療法人（しゃかいいりょうほうじん）　正光会（せいこうかい）　さんさん牧場（ぼくじょう）

～いつでも　だれでも　等しく陽の当たる場所～

観光牧場として週末は親子連れでにぎわう

馬糞堆肥を活用した農業。好評です。

経　緯

○益田市は馬の文化が根付く町であり、また、くにびき国体の会場跡地は市営馬事公苑として市民に愛されていた。

○馬事公苑が老朽化のため存続が難しくなった際、ホースセラピーを受けていた子や親からの「残してほしい」との声を受け、観光牧場、教育・療育、引退競走馬のセカンドキャリアなど多様な役割を果たす就労支援A型事業所を設立。

取組内容

○馬の文化を継承するとともに、流鏑馬神事等に参加し、地域の伝統行事を守る。

○引退後の行き場が少ないことが問題となっている競走引退馬を4頭飼養。乗用馬としてだけでなく、セラピーや流鏑馬神事、日本遺産観光プログラム等様々な活動に参加。

○飼育馬の馬糞を活用し、循環型農業を実施。さらに、同法人B型事業所＆市内の卸売業者と手を組んだ「農・商・福連携事業」も実施し、障がい者の社会参加や地産地消の推進に貢献。

活動の効果

○コロナ禍の影響があったものの、来客数は右肩上がりで増加。

○農産品は高い評価を受けており、野菜を買いに牧場に訪れる客も見られる。

○医療法人が運営する障がい者の就労事業所であるとともに観光牧場も運営し、競走引退馬支援を行っていることで、医療、福祉、馬、観光、教育、農業と多方面から注目を集めている。

応募団体からのアピール・メッセージ

当牧場は、働く場所がない障がい者、引退後の行き場がない馬、社会的に弱い存在である彼らが手を取り合って、支え合いながら運営しています。

「過疎」という言葉が生まれた益田のまちから、障がいがあっても自分らしく輝ける仕組みを、馬という最高の友と一緒に作っていきます。

益田市高津　Tel：0856-31-1377

11 島根県大田市（おおだ）

水産業 | 教育機関との連携 | 関係人口の創出

奨励賞

大田商工会議所（おおだしょうこうかいぎしょ）

～地域が笑顔になる！「大田の大あなご」～

料理イベント「あなごONE DAY NIGHT」

あなご飲食店パンフレットと行列のできるあなご天丼

経　緯

○島根県はあなごの水揚高が全国でもトップクラスで、平成29年から3年連続全国1位、更に大田市の漁獲高は県内の約6割を占め、ほとんどが県外に出荷され、市内での消費はわずかであった。
○大あなごの食イベントを開催したところ、市外・県外からも多くの参加者があり、「大田の大あなご」の名称でブランド化事業展開を開始。

取組内容

○大あなご料理飲食店パンフレット・幟・ポスターの作成や料理イベント等を開催。
○地元の食品加工業者と高校生がコラボしたあなごスナック菓子を販売するほか、道の駅レストランで提供するあなご天丼は、一日100食もの注文があるほど好評。
○「大田の大あなご」を通じ、市内での飲食店・加工品の消費拡大や観光誘客による交流人口の拡大に取組む。

活動の効果

○「大田の大あなご」のブランド展開を行うことで、漁業者、仲卸、小売、加工業者や飲食店、旅館、観光等幅広い業種に好影響をもたらした。また、大あなごを活用した事業展開が行政、警察署、学校等市内の様々な機関へも波及している。
○市内飲食店であなごメニューの提供店が店舗が2店舗から31店舗に増加、これに伴い市内でのあなごの取扱量が200kgから25tにまで増加した。

応募団体からのアピール・メッセージ

令和6年度に市内の高速道路が全線開通予定で、市内で大あなごの年間取扱量を令和7年度には50t、年間内需額667百万円を目指すとともに、観光誘客に繋げたい。

大田市大田町大田イ309番地2　Tel：0854-82-0765

12 島根県安来市（やすぎ）

環境保全・景観保全　教育機関との連携　女性の活躍

永田集落農地・水保全管理活動組織（ながたしゅうらくのうち　みずほぜんかんりかつどうそしき）

『今日もえ―ひだ』～シバザクラの里永田～

シバザクラの植栽面積は1haを超える

初夏、苗づくりから秋の植栽まで共同作業

経　緯

○永田集落は山間地域に位置し、棚田状農地特有の長大かつ急傾斜な畦畔の草刈等管理作業の省力化、農地を含めた集落全体の地域資源を承継していくための魅力作り、その発信手法が大きな課題であった。

○課題解決のため、農地の持つ多面的機能の発揮を促進すべく永田集落農地・水保全管理活動組織を設立、シバザクラの植栽活動等を中心とした共同活動に取り組むこととした。

取組内容

○令和3年度までに、シバザクラ8万本、花桃500本を水田畦畔等11,000㎡に植栽。

○開花シーズンには「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。県内外から多くの方が訪れる一大イベントを実施。

○比田小学校児童による、シバザクラの育苗から植栽まで年間を通して体験学習を実施。

○ブランド米「シバザクラの里猿隠高原比田米®」を販売。

活動の効果

○植栽活動は、畦畔草刈作業の省力化に加え、法面崩れによる土砂流入等災害防止効果も得ている。また、集落の女性を中心に、次世代の若者、集落外住民、学生ボランティア等の参加によりに地域の活力創出に結びついている。

○「猿隠高原シバザクラ祭り」は、県内外からの消費を呼び込み、関係人口の増加と地域の活性化に多大な効果を得るとともに、緑化協力金を募ることで出資を呼び込み、美しきシバザクラの景観維持に大きな効果をもたらしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

『今日もえ～ひだ（比田、日だ）』をスローガンに掲げ、地域コミュニティーの発展を促すとともに、地域住民が「毎日がいい日だ」と思える里づくりで「日本で一番の里」を目指します。
また、シバザクラの植栽活動を通して地域を守り、次世代に自信を持って農地、集落を引き継いでいくため、この活動を多くの方々に知っていただきたいと考えています。

永田集落農地・水保全管理活動組織　代表　Tel：0854-34-0336

13 島根県奥出雲町（おくいずも）

農村文化体験 | グリーン化 | 食育・教育

大石（おおいし）　亘太（こうた）

～地域に開かれた、200年後も残る牧場づくり～

優秀賞

ダムの見える放牧地からの風景

幼稚園や小学校の遠足受入

経　緯

○牛の放牧が創り出す風景に憧れ続け、大学卒業後は畜産に関わる仕事に従事していたが、放牧を実践したいという願望は大きくなるばかりだった。
○地元の乳業メーカーの酪農家募集に応募し、平成26年に放牧を取り入れた酪農経営を開始。

取組内容

○里山で牛を放牧し、省力的に山を管理し、多目的に利用できるフィールドとして整備するとともに、環境負荷を低減するため、放牧に適した小頭数での飼養。
○バター作り体験などの観光メニューを提供するとともに、地域の保育園、幼稚園、小学校の校外学習・遠足を受け入れ「牛のいる風景」を開放。
○放牧地造成に際して、島根大学の研究グループと連携し、焼畑による開拓を実施。

活動の効果

○農業生産額は約2,800万円（平成29年度）から約3,600万円（令和2年度）に増加。
○口コミでの評判やメディアで名前が広まるに連れて、牛をより身近に感じる牧場として認知され、来場者数は、コロナ禍で一時減少したものの、増加傾向。
○適正な量の堆肥を土地に還元して植生を豊かにするとともに、放置竹林を放牧地として再生することで里山を資源として活用。

応募者からのアピール・メッセージ

牛のいる風景が人を引きつける力があると確信しており、牧場を訪れる人達の力を借りながら、200年後もそこに残るだけの多面的な価値を持つ、新しい牧場の形を生み出していけるとの信念を持って事業に挑んでいます。

奥出雲町佐白　Tel：090-2006-5238

14 島根県奥出雲町（おくいずも）

自然・景観　地域活性化　農業体験

竹崎本郷集落協定（たけざきほんごうしゅうらくきょうてい）

～ライトアップ！星空！田舎でしょ！～

ライトアップされた棚田

農業体験（田植え作業）

経　緯

○当地は1400年前からたたら製鉄が行われ、鉄穴（かんな）流しで出来た棚田があり、視察で訪れた県外の企業家に、その景観を気に入ってもらい、棚田をライトアップをしてはどうかという話になった。
○平成29年から、この企業をはじめ地域内外からの支援も受け、棚田のライトアップ事業を開始した。

取組内容

○毎年10月、収穫の終わった棚田のまわりにペットボトル状のライト８千本を設置し、夜の棚田風景を楽しむライトアップ事業を実施し、多くの来客者の目を楽しませている。
○令和元年度からは、田植えと稲刈り作業の農業体験を実施し、家族連れ等が参加。
○棚田で収穫された米は、「源流仁多米こしひかり」としてライトアップイベントやインターネットを通じて販売。

活動の効果

○ライトアップ事業で多くの地域外の人々を呼び込むとともに、イベント活動を通じて企業・団体との新たな連携も生まれ、地域の活性化につながっている。
○コロナ禍にあってはイベントへの来客数は減ったが、昨年からは打ち上げ花火を企画して好評を得ており、地域が元気を取り戻している。

応募団体からのアピール・メッセージ

夜空は星でいっぱい！都会にはない何かがここに来ればいっぱいあります。平成２年から地域外の団体と連携して古民家の改修を行っており、将来は農泊にも取り組んでいき、いろいろな体験活動を通じて地域の農業・農村を守っていくこととしています。

奥出雲町役場農林振興課　Tel：0854-54-2513

15 島根県奥出雲町（おくいずも）

農業

環境保全・景観保全

梅木原集落営農組合（うめぎはら しゅうらくえいのうくみあい）

～シバザクラで美観アップと作業の省力化～

満開のシバザクラ

除草作業

経　緯

○集落内ですでにシバザクラの植栽に取り組んでいる人があり、地域のみなさんが満開の花の素晴らしさを見ていた。
○営農組合員の高齢化が進み、農用地法面の草刈りの省力化を図る必要があった。

取組内容

○初年度から毎年、農用地法面の除草作業に負担がかかっているところから随時植栽。事前に草刈りから防草シート張りまでの作業を行い、その後、組合員や家族をはじめ自治会員に呼びかけ、地域活性化を図り、世代を超えた皆さんでの作業でコミニケーションの充実も図りながら、シバザクラの植栽作業を行っている。

活動の効果

○シバザクラの植栽作業は、世代を超えて老若男女の皆さんでの作業であることから、作業中には、地域の昔話や過去の出来事等を語り継ぐ機会にもなっており、コミニケーションの充実も図られている。また、満開時の状況は当初の計画どおり、地域の美観アップに成果を挙げることができている。
○植栽地が国道沿いにあることから地元のみなさんのみならず、通りすがりの方々も車を止めて見学されるなど、満開時には多数の見物人がお見えになっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

現在の取組みを毎年繰り返し行うことによって、農地用法面等の草刈りの省力化や地域の美観アップを徹底させ、世代を超えて作業をすることのメリットを重視しながら、地域の活性化を図っていきたい。

奥出雲町亀嵩　Tel：0854-57-0577

16 島根県奥出雲町（おくいずも）

農業　後継者育成

村上（むらかみ）　明雄（あきお）

～作業の効率化の推進と後継者を育てよう！ ～

育苗ハウスの設置に取り組む組合員

種まきの共同作業風景

経　緯

○梅木原集落営農組合では、組合員の高齢化が進み、個人での種まきからの一連の農作業が充分できなくなってきていたことから、各作業工程を共同化することで、個々の負担の軽減と作業の効率化を図るとともに、後継者の育成が急務であると認識したことから始めた。

取組内容

○家族を含む組合員の研修視察の実施。
○種まき作業からハウスでの育苗まで、共同作業の推進。
○作業道路等の舗装修理の取組み。
○農薬散布にドローンの導入、隣接する営農組合と共同で防除作業を効率化。
○環境保全・景観保全活動の展開。農用地法面等にシバザクラを植栽。
○後継者の育成。

活動の効果

○毎年の作業のなかで作業の効率化や後継者育成に取り組んだ結果、確実に後継者は育っており、今後の営農組合の運営にも好結果を残すものとなっている。
○環境保全についても、シバザクラの植栽事業は完全に定着し、組合員以外の自治会員からも作業に出かけるなど、地元の名物行事となってきている。

応募者からのアピール・メッセージ

他営農組合等との連携も重視し、お互いに切磋琢磨して農業に従事していきたい。また、長年培った知識を確実に後継者に引き継げるよう、今後ともコミニケーションを重視して日々努力していきたいと考えている。

奥出雲町亀嵩　Tel：0854-57-0577

17 島根県奥出雲町（おくいずも）

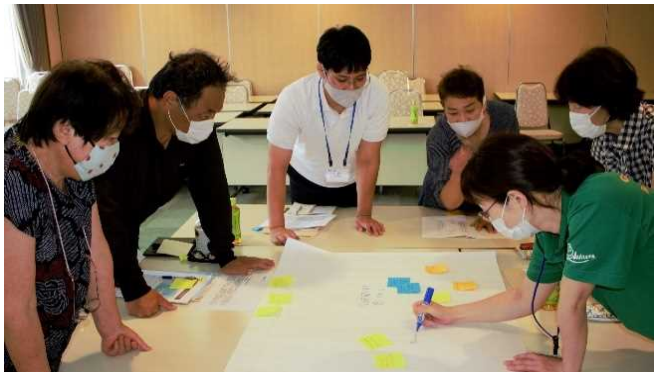
農福連携　引きこもり支援

株式会社サンエイト・社会福祉法人奥出雲町社会福祉協議会

（かぶしきかいしゃ　しゃかいふくしほうじん　おくいずもちょう　しゃかいふくしきょうぎかい）

～唐辛子がきっかけ、企業と社協の連携事業『つなぐ』～

唐辛子の選別とヘタ取り作業



ひきこもりサポーター養成研修会の様子

経　緯

○ある日、ひきこもり支援を担当している社協職員が、サンエイト役員である知人の顔を見ながら思いついた。「ひきこもりと言われる皆さんが一歩家から出るための“何か”をずっと探しているのですが…。あ!!そちらで作っておられる唐辛子のヘタ取り作業、やらせてもらえませんか？納期はお約束できません！」「いいですよ（笑）やってみますか」そんな大雑把なヒラメキと無謀な厚意から企業と社協の連携が始まった。

取組内容

○唐辛子の選別や瓶詰、エゴマの種まきや植え付けなどの作業を就労体験の場として提供。これに伴いサンエイト社員は「ひきこもりサポーター養成研修」を受講し、知識をもってメンバーに接している。

活動の効果

○平成31年に協定を締結して以来、歴代メンバー16名が活動をとおして社会復帰への心の準備を行う中、令和2年にはメンバーの内3名が地元企業に就職を果たす。また令和3年に入ると1名がサンエイトの正規社員として雇用されることとなった。

○サンエイトの取り組みに賛同する企業の輪が広がり、令和2年にはサンエイトに続いて畜産業、産業廃棄物収集運搬業の企業とも協定が結ばれ（令和4年11月現在、5社）、地域全体での取り組みになりつつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

農作業を通して社会復帰に向けての心の準備などの段階を踏み、最終的には一般就労を目指す。住民や地元企業を巻き込んだ連携を一層進めたい。

奥出雲町三成　Tel：0854-54-0800

18 島根県邑南町（おおなん）

農業

地産地消

邑南そば街道推進協議会（おおなん かいどう すいしんきょうぎかい）

～人と人をつなぐそばの物語「邑南そば街道」～

当初の三瓶在来ソバ生産者メンバー

そば講座でデモ打ちを行う岩谷氏と受講生

経　緯

○美味しいそばを求める二人の出合いが取り組みの原点となり、A級グルメ構想を進める邑南町長、担当町職員、事務から生産までを請け負う事務局のつながりがきっかけです。

○「食の学校」でのそば講座、地域おこし協力隊員によるそば店開設、邑南そばの生産が始まった。

取組内容

○改修した古民家で邑南そばを広く提供するとともに、邑南そばの学校として知識習得、技術指導などを行っている。

○邑南そば生産組合を設立して2種類の在来種を主力に生産環境を整えると共に、玄ソバ、そば粉の販売流通を拡大した。

○そばに使うワサビ、天ぷら、山椒甘露煮の食材も地元のものを使い、地域交流を広げている。邑南そばモルト、十割蕎麦パンなどの加工品も成果を上げ始めている。

活動の効果

○そば講座の研修生、卒業生によるそば店の開設につながっており、現在7店により邑南そばが提供されている。

○平成27年度の0.3haから令和4年には約16.0haの栽培面積となった。現在、邑南そば生産組合の組合員数は20名と増加している。

○邑南そばの学校への近隣市町村からの参加、他市町村との情報交換会などにより、広域にそばの文化「石見のそば文化」が広がりつつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

人と人、人と食がつながり、より豊かなソバの産地と食文化の町となることを目指しています。

邑南そば街道推進協議会　Tel：0855-97-0019